



クロッキーは地域の宝!(41年間続く伝統)

11月のある日、平成18年度から3年間、大用小学校の校長を務められた芝さんが来校しました。「まだクロッキー朝会が続いていると聞いて、うれしくなって来てみた」とのことでした。手には、2009年2月号の「教育ジャーナル」Gakkenがありました。この全国発行の雑誌には、「25年間続くクロッキー朝会」の記事がカラーで4ページにわたり掲載されていました。

【児童が書いた作文の一部を引用します】

わたしたちの学校では、水曜日の朝、ワークホールに全員が集まってクロッキー朝会をしています。そうじ班で集まって、かく物を囲むようにしてすわります。時間はたった10分間なので集中してかかないといけません。だからクロッキー朝会の時には、先生の足音だけしか聞こえません。(中略)学期の最後には、学期の中で自分が一番気に入っている作品を選んで、みんなに紹介するというクロッキーかんしょう会をしています。自分の作品を振り返ってみて、作品を選ぶのがけっこう楽しいです。(以下略)

私は2年前、大用小学校に赴任した時に、このクロッキー朝会は今もこれからもずっと残していきたい取組の一つであると感じました。これまで大用小学校に勤務した先生たちも同様の思いがあったのではないかと推察されます。だからこそ続いてきたのだと思います。

この雑誌には、クロッキー朝会の始まりの経緯も書かれています。昭和59年度の文書(研究集録ではないか)に、「日常的な小さな積み重ねが、やがて大きな力となる。私共はそんな事を考えて、何か全校的・統一的に積み重ねられることはないだろうかと考えたうえで、クロッキー朝会をすることになったのである。」(後略)とあります。当時も今も、子どもたちは『集中する姿』を見せてくれています。朝運動や休み時間の遊びでは、元気一杯に走り回っているのですが、クロッキー朝会の10分間は、ノートの紙面と題材を見つめて、ペンで一本の線を動かしていきます。先生の足音だけが響いている、そんな集中した時間が流れ、真白だった紙面には、それぞれの個性が詰め込まれた素晴らしい作品が、次々に出来あがってきます。

昭和59年度から一度も途切れることなく、41年間続いてきたこの伝統をこれからも残していきたいと考えています。親子3代にわたりクロッキーをしてきたというご家庭もあるかもしれません。まさに、クロッキーは地域の宝と言えるのではないのでしょうか。



▲あざみの花をかこう (5月10日)



▲上ばきをかこう (5月24日)



▲楽器をかこう (11月15日)



▲テープカッターをかこう (11月29日)



▲先生をかこう (5月17日)



▲調理器具をかこう (6月21日)